

おせっかい講座 2026

子ども・家庭を応援するおせっかいワーカーになろう！



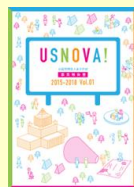
コロナ感染の時に、みんなでコロナのことを学んで、マスクしたり手洗いしたり換気した（公衆衛生）ように、子どもや家庭を応援するのも、不登校やトラウマや貧困などを学んでインフォームドケアで取り組みたいですね。私たち一般の市民も専門家も、子どもや家庭に関わる人誰もが、もう少し知識やスキルを身につけておせっかいワーカーになって、みんなで応援できる地域社会をつくりたいと思います。

【講座日程】

	仮日程	講師（所属等）	テーマ	会場
1	4.17(金)	斎藤 陽子（福岡大学精神医学教室）	子どもたちをトラウマの影響から守るために	♠501
2	4.24(金)	四宮 淳平（西日本新聞教育担当編集委員）	「居場所」難民～報道記者が見た不登校の深層～	♠501
3	5.01(金)	黒瀬 まり子（臨床心理士） 光橋 幸恵（助産師）	包括的性教育～生きる力を育む仲間とつながろう～	♡全
4	5.15(金)	大城 喜江子（浦添市森の子児童センター）	地域づくりは人づくり～ひとりびとりを大切に～	♠501
5	5.29(金)	大久保 真紀（朝日新聞編集委員） ※	子どもや若者への性暴力の実態を知る	♠501
6	6.05(金)	小河 光治（こどもの貧困解消センターあすのぼ） ※	身近にある子どもの貧困の現状を知る	♡全
7	6.12(金)	大内 紀彦（神奈川県立鶴見支援学校） ※	イタリアの社会的協同組合とフルインクルーシブ教育	♠502
8	6.26(金)	関 正樹（児童精神科医・大湊病院） ※	オンラインゲームとつながる子どもや若者の世界	♡全
9	7.03(金)	安發 明子（立命館大学） ※	フランスの親子まるごと支援	♡全
10	7.17(金)	八坂 知美（小児科医・福岡市南部療育センター）	子ども虐待、脳への影響 子どもと養育者にどう関わるか	♡全
11	7.31(金)	田代 あや（こども食堂CIRCLE）	居場所づくりを通じて地域のハブになる	♠501
12	8.07(金)	別所 美佐子（大阪市立田島南小学校）	『生きる』教育で学校を子どもたちの「心の安全基地」に	♠501
13	8.28(金)	堀田 奈都希（プレーワーク忍者衆） ※	外国のプレイワーカー体験から見た日本のプレイパーク	♠501
14	9.11(金)	山口 覚（津屋崎ランチ）	対話で創る子どもと家庭を応援する活動、居場所、地域	♠501

（注）講座の日時・講師・会場は、都合により変更になる場合があります。単発の聴講希望の方は申し込みの連絡、確認をお願いします

※ 印講師は会場に来られません。オンラインによる講演となります。他の講座も事情によりオンラインの講演になる場合があります



定員 30名（会場）、オンライン50名 どなたでも参加できます。以下の方は大歓迎！

- ① 子ども食堂や居場所、遊び場活動に取り組んでおられる方 ② 地域で子どもや家庭を応援する活動がしたい方
- ② 保育士、幼稚園教諭、社会福祉士、精神保健福祉士、看護師、保健師、教師など福祉、教育、医療の専門職

日程 18:30～20:30（講座によって異なりますが、目安として講義90分 質疑応答30分）

会場 ♠印 ふくふくプラザ研修室（福岡市中央区荒戸荒戸3-3-39）

♡印 あすみんセミナールーム（福岡市中央区今泉1-19-22天神クラス4F）

会費 10000円（全14講座）学生、16～25受講生、教員、保育士、里親、子ども食堂（居場所）・遊び場運営者5000円

ワーカーズコープ組合員：無料 + どのタイミングでも（メールで）全講座の受講申し込み頂けます

応募 以下のことを明記して、メールで下記のアドレスにお申し込みください。

（氏名、メールアドレス、電話番号、所属、あれば資格（福祉、教育、医療）、志望動機、子どもに関してやりたいこと）

ネット（Peatix）からの受講申し込み <https://peatix.com/event/4937299/view> 二次元コード⇒

締切 4月11日（土）定員に満たない時は、締め切り後も受けつけます

聴講 各講座は、1回毎の聴講が可能です（会費1講座1000円、学生500円〈会場〉要申込メールor Peatix）

会場だけでなくオンライン（ZOOM）で受講できます。

連絡 担当山口 Tel: 090-1199-8792 E-mail: magoemon3higerin@outlook.com



主催 ワーカーズコープ九州事業本部沖縄開発室
 助成 社団法人 日本社会連帯機構
 ワーカーズコープは労働者協同組合法人になりました



4/7 第1回 斉藤 陽子 (福岡大学精神医学教室)

「子どもたちをトラウマの影響から守るために」

子どもをトラウマの影響から守り、その回復を支援するための基礎知識と実践的なアプローチを解説。トラウマの影響を深く理解するための鍵として、「トラウマインフォームドケア」の視点が必要。



4/24 第2回 四宮 淳平 (西日本新聞教育担当編集委員)

「『居場所』 難民～報道記者が見た不登校の深層～」

過去最多を更新し続ける不登校者数の背景には何かがあるのか。家庭でも学校でもない、子どもが自分らしくいられる「第3の居場所」が圧倒的に不足。多様化する子どもの特性や苦しみに追いつけない現状を報告。



5/1 第3回 黒瀬 まり子 (臨床心理士) 光橋 幸恵 (助産師)

「包括的性教育～生きる力を育む仲間とつながろう」

その目的は、子どもや若者が「自分の心と体を尊重し、他者と良好な関係を築き、健康で安全な人生を選択できる能力」を養うことだとされます。いま正に大切にしたい必要な包括的性教育を基礎からしっかりと学びたいです。



5/15 第4回 大城 喜江子 (浦添市森の子児童センター)

「地域づくりは人づくり～ひとりびとりを大切に～」

様々な困難を抱える子どもや家庭を支えていくときに地域がネットワークを作ってインクルーシブに関わるために児童館(クラブ)が地域のセンターとして果たせる役割がもっとあることを実践例で示して頂きます。



5/29 第5回 大久保 真紀 (朝日新聞編集委員)

「子どもや若者への性暴力の実態を知る」

質量ともに圧倒的な数の取材を通して被害者・家族にも治療者・支援者にも、そして加害者にも接してきた取材チーム。たとえしんどくとも、その生の声や姿を知ることが、子どもに関わる私たちには必要だと思います。



6/5 第6回 小河 光治 (こどもの貧困解消センターあすのぼ)

「身近にある子どもの貧困の現状を知る」

コロナ禍以降、さらに深刻化した物価高騰が困窮世帯を直撃している。食費を削り、米を買うことすらためらう家庭が増え「子どもに食べさせるものがない」という声は日常的に届いている。具体的なお話を伺います。



6/12 第7回 大内 紀彦 (神奈川県立鶴見支援学校)

「イタリアの社会的協同組合とフルインクルーシブ教育」

教育の目的として学力の獲得よりも自律した市民の育成があるイタリアでは、70年代に特別支援学校を原則廃止し、障がい児も通常学級で学ぶ体制に移行しました。そこで社会的協同組合が大きな役割を果たしているそうです。



6/26 第8回 関 正樹 (児童精神科医・大瀨病院)

「オンラインゲームとつながる子どもや若者の世界」

関先生は、ゲームにはまる子どもや若者を「現実逃避」とネガティブに捉えるのではなく「過酷な現実を生き抜くためのシェルター(避難所)」であると捉える視点を提示している。詳しく学びたいと思います。



7/3 第9回 安發 明子 (立命館大学)

「フランスの親子まるごと支援」

フランスでは「子どもの権利」の徹底と一貫性した「社会全体で育てる」仕組みと連帯が充実している。問題が起きてから対処するのではなく、予防的に社会が介入するネットワークが非常に強固だそうです。



7/17 第10回 八坂 知美 (小児科医・福岡市南部療育センター)

「子ども虐待、脳への影響 こともと養育者にどう関わるか」

病気、障がい、療育、子育て、マルトリートメント、インクルーシブ教育、子どもに関わるあらゆる治療と支援のスペシャリスト。最新の脳科学から、子どもを観察し理解し実際にどうか支援するかのヒントが満載。



7/31 第11回 田代 あや (ORCLE 児童育成支援拠点 YOFI)

「居場所づくりを通じて地域のハブになる」

古民家を改修した拠点を中心に、子ども食堂からスタートし、学習支援や農業体験、料理教室などの多様な体験機会も創出しています。「孤育て」になりやすい家庭などが気軽に繋がれる「地域のハブ」を目指している。



8/7 第12回 別所 美佐子 (大阪市立田島南小学校)

「『生きる』教育で学校を子どもたちの【心の安全基地】に」

『生きる教育』は「自分らしく生きていくための土台」を学校教育の真ん中に置く画期的な取り組み。「何ができるか」より「そこにいること」成績や成果で評価する前にそこに存在していることを肯定する関わりを重視。



8/28 第13回 堀田 奈都希 (プレーワーク忍者衆)

「外国(英国・香港)のプレーワーカー体験から見た日本」

子どもの権利である休んだり遊んだりする権利がどんどん失われています。国内外でプレーパークのワーカーとして活動してきた堀田さんに、いま子どもたちに何かが必要か、何かできることはないか、伺いたいと思います。



9/11 第14回 山口 寛 (津屋崎ランチ)

「対話で創る子どもと家庭を応援する活動、居場所、地域」

あらゆる活動を進めるベースとして、改めて対話の重要性と必要性が注目されています。今回は、少しでも実践的(体験値)な学びの場となるように、少人数のグループワークを取り入れた講義にして頂きます。

